

講義名	地誌学			授業形態	
担当教員	藤原 喜美子	開講期・曜日・時限	後期 金曜日 1 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生
				ナンバリング・コード	LBA132

### 主題と概要

テーマ：地誌から見た日本の地域性  
この講義の目的は、日本の各地域にねざす地域性を読み取り、理解していくことにある。地誌は、各地域の自然、社会、文化などの特性を記述したものである。そこで、近世（江戸時代）の頃に記された地誌（紀行文）を題材に取り上げ、現在の様子と比較しながら、各地域の生活文化の特色を考察する。

### 到達目標

学生が、講義の内容を理解した上で、地誌（紀行文）に記された当時の生活の特色（地域性）に気づき、自らの言葉で説明できるようになる。

### 提出課題

講義では毎回、講義内容に関する感想文などを記入し、小レポートとして提出してもらう。感想文のテーマは、講義ごとに伝える。小レポートとは別に、講義に関連した指定のテーマについて、学期末レポートの提出を求める。このレポート課題の詳細は別途、11月後半に、講義中の説明ならびにRYUKA portal「キャンバスクロス」の掲示を通して指示する。

### 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

毎回の講義に書いてもらう感想文の内容は、提出後に次の回の講義などで、日本の生活の特色（地域性）の事例として紹介する。

### 評価の基準

評価は、平常点（各回の感想文などを記した15回分の小レポート、60点）、学期末レポート（40点）を総合して行う。  
評価の基準は、第1回の講義の時にシラバスの用紙を配付し、詳細を伝える。

### 履修にあたっての注意・助言他

- 【重要】この講義では、プリント資料として、主に「近世（江戸時代）に記された地誌（紀行文）」を使用する。現代の文章とは、かなり異なる表現や記述が多くみられるので、辞書を使用して言葉の意味を調べると、予習や復習を自分でしっかりと行うこと。
- 予習や復習で調べた内容や講義中に大事な点と思ふ箇所は、メモをとること。
- 講義中に私語をして、他の受講生の妨げにならないように注意すること。

### 教科書

.使用しない。

### 参考図書

.なし。

### その他

<プリント資料>  
各回毎、プリント資料を配布する。  
プリント資料は無くさないように保存すること。  
<参考文献>  
講義中に適宜、紹介する。

### 授業計画

講義の進め方の詳細は、第1回の講義で説明する。

1. 地誌学とは  
地誌をどのようにとらえるか
2. 菅江真澄源流記から見た地誌  
舞臺の生活
3. 菅江真澄源流記から見た地誌  
秋田の生活
4. 東遊雑記から見た地誌  
山形の生活
5. 東遊雑記から見た地誌  
岩手の生活
6. 東遊雑記から見た地誌  
西郷の生活
7. 利根川図志から見た地誌  
利根川の利府
8. 利根川図志から見た地誌  
利根川沿いの神社
9. 利根川図志から見た地誌  
江戸の生活
10. 秋山記行から見た地誌  
長野の生活
11. 和州遊覧記から見た地誌  
奈良の寺社
12. 都名所図会から見た地誌  
京都の生活
13. 都名所図会から見た地誌  
京都の寺社
14. 播州名所遊覧図会から見た地誌  
兵庫の生活
15. 江漢西遊日記から見た地誌  
三重の生活

### 授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

### 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習  
次の講義範囲の準備学習として、シラバスの授業計画に記してあるテーマを確認し、そのテーマについて興味のある事柄を1つ調べる。また、各回の講義の最後に、翌週の講義のキーワードを紹介するので、翌週までにキーワードなどの言葉の意味を調べておく（約2時間）。

復習  
講義終了時、その日の講義内容を確認しながら、内容に関する感想文を出席カードに記入する。また、各自で、その日の講義の要点（キーワードやポイント）等を確認する（約2時間）。

### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この授業は、全学共通科目の教養科目として、上記の主題と概要、到達目標の修得を通じて、本学のディプロマ・ポリシーのうち、特に次のような人材を育成することに貢献できる。  
(2) 知識を知恵に転換することができる。論理的思考力を持った人材  
・課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査・整理することができる(情報収集力)  
・収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる(情報分析力)  
・現象や事象のなかに隠れている問題点やその要因を見出し、解決すべき課題を設定することができる(課題発見力)  
・さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた道筋や段取りを明らかにした上で、具体化することができる(構想力)

### 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

この講義は、プリントを用いた講義の形式で進める。

### 実務経験の有無及び活用

実務経験あり。授業担当者は日本民俗学（生活文化史）に関する現地調査や文化財保護業務の実務経験を有しており、その実務経験を活用し、地域の特性を紹介しながら授業を行う。

### 備考

【受講生へのメッセージ】  
講義に使う資料は、「江戸時代（近世）を生きた人々が残した記録」である。江戸時代に見聞した事や考えた事など、当時の生活の様子が記録として残り、その当時の生活を知る貴重な資料として現在に伝えられている。資料は、当時の人々の声を聞くことができる大事なものである。現在どの類似点もあれば、相違点もある。そこで、テーマごとに、現在の生活と比較しながら資料を読んでもらいたい。一方、この講義を通して、日頃から自分の周囲の景色をながめ、改めて周囲の事柄に興味を持つきっかけにしてもらいたいと思う。